

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	生涯にわたり学べる社会の実現		課(室)名	生涯学習課
	施策	家庭・地域の教育力の向上		電話番号	087-839-2633
	取組方針	学校・家庭・地域の連携・協働の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	子どもを中心にした地域交流事業			

【事業全体概要】

事業概要	各地域のコミュニティ協議会や子ども会、PTA等の複数の各種団体で構成された実行委員会が、年間7日以上実施する、子ども、保護者及び地域の大人が交流する事業に対して助成する。			
年度概要	継続1団体への補助			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	各地域の児童生徒とその保護者並びに地域の大人
意図（どのような状態にしたいか）	事業を通して、地域の子どもの保護者並びに大人が接する機会を増やし、交流を深めることで、人と人とのネットワークが広がり、地域の教育力が向上する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
事業に関するホームページ更新回数	回	0	0	1	1	0

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		当該事業が「効果があった」と実感した地域の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 100	100	0
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	事業の活用に関する、アンケート調査結果では、実施2団体ともに「効果があった」と回答があり、今後も何らかの形で事業を継続する意向であるなど、地域の教育力向上を図ることができた。			(目標達成度)	100.0%				
				(得点)	35点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
			目標値 実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
				(目標達成度)					
				(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	2,788	2,598	2,476	2,396
(事業費)	[千円]	543	340	160	80
(職員人件費)	[千円]	2,245	2,258	2,316	2,316

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	継続 2 団体への補助	継続 2 団体 × 8 0 千円	総額	160	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	160				
令和 7 年度	継続 1 団体への補助	継続 1 団体 × 8 0 千円	総額	80	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	80				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	1	検討の余地がある
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	0	十分可能で、検討すべきである

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	85 / 100 (85%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

実施した地域では、子ども・保護者・大人との交流拡大に繋がり、一定の効果をあげることができた。助成期間終了後も、地域学校協働活動の中で同様の取組が行われるよう、積極的な推進を図る必要がある。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

令和7年度継続団体である1団体への補助を最後に、事業としては所期の目的を達成したため、終了するが、当事業を行った地域においては、実施効果が持続的なものとなるよう、地域学校協働活動を推進するなど、地域の教育力の向上につなげていく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	生涯にわたり学べる社会の実現		課(室)名	生涯学習課
	施策	家庭・地域の教育力の向上		電話番号	087-839-2633
	取組方針	学校・家庭・地域の連携・協働の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	家庭教育推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	家庭教育力の更なる向上を図るため、保護者を対象に、小学校における就学時健康診断・入学説明会や、幼稚園の授業参観等の機会に専門の講師による「家庭教育応援講座」を実施し、多種多様な学習機会・関連情報を提供する。また、保護者が空き時間等を利用し、家庭教育について学べる機会を提供するため、「家庭教育コラム」の掲載や家庭教育に関する動画の配信などを実施する。 さらに、子どもたちが生活リズムを向上させ、様々な活動に積極的に取り組み、健やかに成長できるよう、文部科学省が展開している「早寝早起き朝ごはん運動」の更なる普及・啓発活動を推進する。			
年度概要	家庭教育応援講座開催 家庭教育についての情報発信 早寝早起き朝ごはん運動普及・啓発事業の実施			
重点取組事業		市長マニフェスト	関連根拠法令	

【事業の目的】

対象（何を）	市内の幼児・児童・生徒の保護者
意図（どのような状態にしたいか）	身近な人から子育てを学んだり、助け合う機会が減少する中、安心して子育てや家庭教育ができる環境をつくる。 家庭において、親子で規則正しい生活習慣の必要性について考え、取り組むことができる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
家庭教育コラム掲載回数	回	0	0	5	5	5

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
家庭教育応援講座の開催回数	回	目標値 実績値	0 0	0 0	175 162	180	185
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 事業の活用について積極的に周知を行った結果、目標値には届かなかったが、90%を超える講座を開講し、家庭の教育力向上に資することで、概ね目標を達成することができた。			（目標達成度） 92.6% （得点） 32点				
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）			（目標達成度） （得点）				

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	5,917	5,903	6,256	7,228
(事業費)	[千円]	678	634	852	1,824
(職員人件費)	[千円]	5,239	5,269	5,404	5,404

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	家庭教育応援講座開催 家庭教育についての情報発信 早寝早起き朝ごはん運動普及・啓発事業の実施	講座謝金 599千円 情報発信謝金 30千円 早寝早起き朝ごはん運動 223千円	総額	852	
			特定財源	国	283
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	569				
令和 7 年度	家庭教育応援講座開催 家庭教育についての情報発信 早寝早起き朝ごはん運動普及・啓発事業の実施	講座謝金 1,203千円 情報発信謝金 36千円 早寝早起き朝ごはん運動 585千円	総額	1,824	
			特定財源	国	506
				県	300
				市債	0
				他	0
一般財源	1,018				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	88 / 100 (88%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

令和4年度からは、家庭教育学級を子育て力向上応援講座に統合し、事業内容を拡充した上で、家庭教育応援講座として実施するとともに、時間や場所を問わず家庭教育について学習できるよう、「家庭教育コラム」の掲載等を実施している。
 学校・園からの希望に基づく開催回数は減少傾向にあるため、保護者のニーズやライフスタイルの多様化に対応した、家庭教育についての学びの機会の提供方法について検討する必要がある。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

引き続き、制度の周知等に努めるとともに、家庭教育コラムの掲載や動画配信を始め、様々な媒体を活用した効率的な家庭教育に関する啓発活動を実施していく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	生涯にわたり学べる社会の実現		課(室)名	生涯学習課
	施策	家庭・地域の教育力の向上		電話番号	087-839-2633
	取組方針	学校・家庭・地域の連携・協働の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	地域学校協働活動推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域で活動する様々な住民等の参画を得て、地域と学校が連携して、社会全体で子どもの学びや成長を支える「地域学校協働活動」を推進するため、地域と学校の実情を理解し、双方をつなぐことができるコーディネーターを配置したモデル事業を令和6年度から8年度まで実施し、その効果検証も踏まえて、9年度から本格実施する。			
年度概要	モデル校8校における実践支援 地域・学校関係者等への周知啓発及び研修会等の開催 各校独自の課題解決支援のための小・中学校への個別訪問・相談対応			
重点取組事業	重点取組	市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	小学校区単位で配置するコーディネーターと地域住民、学校職員
意図（どのような状態にしたいか）	コーディネーターの仲立ちの下、地域、学校それぞれ共通して抱える課題について共に議論し、連携・協働して解決を図ることができる地域社会が構築される。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
地域学校協働活動に関する研修会等の実施回数	回	0	0	2	2	2

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		地域学校協働活動推進員を委嘱している小学校数	校	目標値 実績値	0 0	0 0	4 4	8
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	小学校全校に対して聞き取りし把握した状況に基づき、モデル事業の初年度は、先駆的な取組を実践している4校について、コーディネーターを委嘱し、事業を推進することができた。							
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	小学校全校に対して聞き取りし把握した状況に基づき、モデル事業の初年度は、先駆的な取組を実践している4校について、コーディネーターを委嘱し、事業を推進することができた。							

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	0	0	4,285	14,954
(事業費)	[千円]	0	0	425	7,234
(職員人件費)	[千円]	0	0	3,860	7,720

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	モデル校 4 校における実践支援 地域・学校関係者等への周知啓発及び研修会等の開催 各校独自の課題解決支援のための小・中学校への個別訪問 ・相談対応	2 0 8 千円 2 1 3 千円 4 千円	総額	425	
			特定財源	国	139
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	286				
令和 7 年度	モデル校 8 校における実践支援 地域・学校関係者等への周知啓発及び研修会等の開催 各校独自の課題解決支援のための小・中学校への個別訪問 ・相談対応	1, 4 6 5 千円 8 4 千円 5 千円	総額	7,234	
			特定財源	国	503
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	6,731				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	5	高まっている
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	96 / 100 (96%)	今後の方向性	拡充
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

モデル事業の実施初年度は、モデル校において地域・学校それぞれにメリットがある新たな取組が見られたほか、地域住民・学校関係者等を対象に開催した研修会には多数の参加があり、事業の普及促進につながった。
これらの取組の効果を検証し、次年度以降の事業を推進する必要がある。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

モデル事業実施期間の成果の分析や支援の効果を検証するなどして、令和 9 年度以降の本格実施に向けた検討を行い、制度構築を図っていく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	生涯にわたり学べる社会の実現		課(室)名	生涯学習課
	施策	家庭・地域の教育力の向上		電話番号	087-839-2633
	取組方針	青少年の健全育成の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	少年教育推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	新春子どもフェスティバルや子ども会リーダー研修会等の共催事業を、高松市子ども会育成連絡協議会と連携して実施するなど、子どもの健全育成を図る。			
年度概要	新春子どもフェスティバル開催 子ども会フットベースボール大会開催 子ども会育成指導者講習会開催 地域活動促進事業（少年教育指導者派遣）の実施			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	高松市子ども会育成連絡協議会、各校区子ども会加入児童
意図（どのような状態にしたいか）	社会的活動やスポーツ・レクリエーション活動等への参加を通じ、自主性や協調性、リーダーシップを身に付けるなどして、子どもたちの人間的成長が育まれる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
共催事業の実施回数	回	0	0	6	5	5

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
		リーダーとしての自覚が高まった小学生の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	100 96.22	100	100
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
	目標値には届かなかったが、子どもたちの意識が高まり、その健全育成に資することで概ね目標を達成することができた。			(目標達成度)	96.2%				
				(得点)	34点				
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8	
			目標値 実績値						
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）								
				(目標達成度)					
				(得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	9,551	9,491	9,288	9,792
(事業費)	[千円]	2,067	1,964	1,568	2,072
(職員人件費)	[千円]	7,484	7,527	7,720	7,720

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	新春子どもフェスティバル開催 子ども会フットベースボール大会開催 子ども会育成指導者講習会開催 地域活動促進事業(少年教育指導者派遣)の実施	フェスティバル 899千円 フットベースボール 184千円 講習会 471千円 地域活動促進事業 14千円	総額	1,568	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	1,568				
令和 7 年度	新春子どもフェスティバル開催 子ども会フットベースボール大会開催 子ども会育成指導者講習会開催 地域活動促進事業(少年教育指導者派遣)の実施	フェスティバル 1,161千円 フットベースボール 278千円 講習会 585千円 地域活動促進事業 48千円	総額	2,072	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	2,072				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

少子化や保護者の社会観の変化等に伴う加入率の低下により、参加者数は縮小傾向にあるが、活動の意義は大きいと考えられることから、引き続き、魅力的な事業を協力して行い、子どもたちが参加したいと思えるよう実施する必要がある。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

団体活動の意義について周知啓発を図るほか、社会情勢の変化に応じた自立的な運営や活動を促すなどしながら、子どもの体験活動の充実に努めていく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	生涯にわたり学べる社会の実現		課(室)名	生涯学習課
	施策	家庭・地域の教育力の向上		電話番号	087-839-2633
	取組方針	青少年の健全育成の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	青年教育推進事業			

【事業全体概要】

事業概要	青年教育の振興を図るため、関係団体を支援するほか、「知的障がい者青年教室」を開催し、知的障がいのある青年が、様々な学習・体験活動を通じて知識・技能を習得するとともに、市民ボランティアが、知的障がい者に対する理解を深める機会を提供する。			
年度概要	知的障がい者青年教室の開催 香川県青年教育振興協議会負担金支出 高松市青年連絡協議会運営事業補助			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	知的障がい者青年教室の受講生及び市民ボランティア
意図（どのような状態にしたいか）	知的障がい者の交流の機会や居場所を提供することで、社会生活への不安解消や生きがいづくりにつながるのと同時に、広く市民の社会貢献への意欲、知的障がい者に対する理解及び対応力の向上が図られる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
知的障がい者青年教室開催回数	回	0	0	8	8	8

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		知的障がい者への理解が深まったボランティアの割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	86 100	87
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	知的障がい者支援の実践やアドバイザーからの助言、ボランティア間の情報交換等を通じ、知的障がい者に対する理解を深めることができた。			(目標達成度) 116.3%				
				(得点)		35点		
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
	「教室に参加して良かった」と回答した受講生の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	95.2 94.5	96	96
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	目標値には届かなかったが、90%を超える受講生が満足しており、知的障がい者の生きがいづくりなどに資することで、概ね目標を達成することができた。			(目標達成度) 99.3%				
				(得点)		35点		

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	4,802	4,851	4,993	5,054
(事業費)	[千円]	312	335	361	422
(職員人件費)	[千円]	4,490	4,516	4,632	4,632

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	知的障がい者青年教室の開催 香川県青年教育振興協議会負担金支出 高松市青年連絡協議会運営事業補助	2 5 1千円 4 1千円 6 9千円	総額	361	
			特定財源	国	73
				県	35
				市債	0
				他	0
一般財源	253				
令和 7 年度	知的障がい者青年教室の開催 香川県青年教育振興協議会負担金支出 高松市青年連絡協議会運営事業補助	3 0 1千円 5 2千円 6 9千円	総額	422	
			特定財源	国	150
				県	75
				市債	0
				他	0
一般財源	197				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	1	検討の余地がある
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	90 / 100 (90%)	今後の方向性	改善
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】 (評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

知的障がい者青年教室については、教室内容の充実を図り、知的障がい者の余暇活動の充実に寄与した。
今後とも関係団体と連携しながら、青年活動の充実に取り組む必要がある。

【今後の事業方針】 (評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

関係団体との協議を重ねながら、活動内容の充実を促す。また、知的障がい者青年教室については、参加者の生涯学習の場として、様々な学びや体験ができる場づくりに努める。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	生涯にわたり学べる社会の実現		課(室)名	生涯学習課
	施策	家庭・地域の教育力の向上		電話番号	087-839-2633
	取組方針	青少年の健全育成の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	社会教育団体育成支援事業			

【事業全体概要】

事業概要	高松市PTA連絡協議会や高松市子ども会育成連絡協議会等の社会教育関係団体を支援し、団体の自立を促進するとともに、団体の自主的な活動を通じて児童等の健全育成を図る。			
年度概要	高松市PTA連絡協議会運営補助ほか2件 高松市子ども会育成連絡協議会運営補助			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	高松市PTA連絡協議会等社会教育関係団体
意図（どのような状態にしたいか）	社会教育関係団体の自主的な活動を支援することで、学校運営や地域における教育環境の充実が図られるほか、体験活動等を通して子どもの人間的成長が育まれる。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
補助金交付件数	件	0	0	4	4	4

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		社会教育団体1団体当たりの平均年間主催事業数	回	目標値 実績値	0 0	0 0	26 26.33	27
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	コロナ禍以前の水準には戻っていないものの、各団体とも効率的な運営のための事業の見直しを行った結果、前年度より事業数は増加し、目標を達成することができた。			（目標達成度） 101.3%		（得点） 35点		
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
				（目標達成度）		（得点）		

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	6,845	6,858	6,916	6,916
(事業費)	[千円]	4,600	4,600	4,600	4,600
(職員人件費)	[千円]	2,245	2,258	2,316	2,316

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	高松市PTA連絡協議会運営補助ほか2件 高松市子ども会育成連絡協議会運営補助	2,800千円 1,800千円	総額	4,600	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	4,600				
令和 7 年度	高松市PTA連絡協議会運営補助ほか2件 高松市子ども会育成連絡協議会運営補助	2,800千円 1,800千円	総額	4,600	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	0
一般財源	4,600				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
	住民福祉の向上に貢献しているか。	5	貢献度が大きい
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	3	概ね効率的にできている

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	94 / 100 (94%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

各団体とも、少子化や保護者の社会観の変化等に伴う加入率の低下により、活動規模は縮小傾向にあるため、実施事業数は減少しているが、活動の意義は大きいと考えられることから、引き続きその活動を支援していく必要がある。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

団体活動の意義について周知啓発を図るほか、社会情勢の変化に応じた自立的な運営や活動を促すなどしながら、支援を継続していく。

令和 7年度（6年度決算分）高松市事務事業評価表【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	人を育み、多様な生き方が尊重されるまち	評価担当	局名	教育局
	政策	生涯にわたり学べる社会の実現		課(室)名	生涯学習課
	施策	家庭・地域の教育力の向上		電話番号	087-839-2633
	取組方針	青少年の健全育成の推進		事業期間	令和 6年度～令和 13年度
	事務事業	二十歳のつどい開催事業			

【事業全体概要】

事業概要	二十歳となる青年が、大人になったことを自覚するとともに、自立していく決意を新たにしてもらうため、祝い、励ますための式典を開催する。			
年度概要	二十歳のつどい式典の開催			
重点取組事業		市長マニフェスト		関連根拠法令

【事業の目的】

対象（何を）	二十歳となる青年
意図（どのような状態にしたいか）	式典への参加を契機として、大人になったことを自覚し将来への決意を新たにします。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
運営スタッフとの協議回数	回	0	0	7	11	11

【事業の成果】

成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
		式典に参加して将来への決意を新たにできた青年の割合	%	目標値 実績値	0 0	0 0	84 84.08	85
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
	式典の企画や運営に若者自身に携わってもらい、内容を充実させるなどした結果、参加者の意識を高めることができた。		(目標達成度) 100.1% (得点) 35点					
成果指標	成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	R 4	R 5	R 6	R 7	中期目標 R 8
			目標値 実績値					
成果指標	成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）							
			(目標達成度) (得点)					

【コストの推移】

	単位	R 4(決算)	R 5(決算)	R 6(決算)	R 7(予算)
トータルコスト	[千円]	13,926	14,222	14,715	15,790
(事業費)	[千円]	4,945	5,190	5,451	6,526
(職員人件費)	[千円]	8,981	9,032	9,264	9,264

【事業内容と事業費内訳】

項目	事業内容	積算根拠等 (予算の増減理由)	事業費		
令和 6 年度	二十歳のつどい式典の開催	5,451千円	総額	5,451	
			特定財源	国	0
				県	0
				市債	0
				他	231
一般財源	5,220				
令和 7 年度	二十歳のつどい式典の開催	6,526千円	総額	6,526	
			特定財源	国	704
				県	0
				市債	0
				他	55
一般財源	5,767				

【事業の評価】

区分	評価項目	評価基準	
妥当性	事業の実施が総合計画・市長マニフェスト等の目標達成や、事業の根拠等に結びつくか。	5	結びつく
	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか。	3	横ばいである
有効性	事業の上位目標である施策に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
	住民福祉の向上に貢献しているか。	3	貢献度が中程度、義務的事業
効率性	事業実施手法としては最適か。	3	現状が望ましい
	類似事業との統合・連携やコスト削減の可能性はあるか。	5	現状が望ましい

評価ランク	A (80%~ 100%)	A	総合点 (率)	92 / 100 (92%)	今後の方向性	継続
	B (60%~ 79%)					
	C (0%~ 59%)					

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

当日参加できない対象者のためにオンライン配信を実施するほか、隣接する玉藻公園を無料開放するなど創意工夫しながら式典を開催した。
令和6年度に初めて実施した参加者アンケートの結果等も踏まえ、式典内容や運営方法の見直しを検討する必要がある。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針・改善策を具体的に記入)

引き続き、アンケート結果や運営スタッフ等当事者の意向も踏まえながら、式典内容の充実を図るとともに、人材の定着や地域活性化の機会と捉え、市長部局とも連携しながら新たな事業展開を検討していく。